

授業科目名	実技 A・B I～IV	担当形態	実技		
		開講学期	春・秋		
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1, 2

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

演奏技術の向上に向けて練習方法を工夫し、特に多彩な音楽表現や音色の修学を目標にする。また作曲家それぞれについて理解を深め、楽曲の形式と性格を知り、自分の演奏技術から適切な表現ができる事を目標とする。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

各自のレベルに合う楽曲を教員と共に選ぶ事。読譜を確実にし、自分なりの解釈を見つける為に一度は音源を聞き、楽曲分析をする努力をする事。その方法がわからなければ自分から教員に質問する事。欠席する場合は、事前に必ず教員に連絡を入れ、相互理解を深める事。

### ＝授業の概要＝

この授業は、演奏技術の向上に向けて練習方法を工夫し、特に多彩な音楽表現や音色の修学を目標にした授業である。また作曲家それぞれについて理解を深め、楽曲の形式と性格を知り、自分の演奏技術から適切な表現の修学も目標となる。

### ＝授業計画＝

(1年次)

I期 各自のテクニックの整理をする。既にできる事とこれから修得すべき事を明確にし、練習曲の計画を立てる。

バロック、古典派の作品への理解を深め、レパートリーの拡大を目標とする。各自のレベルに合った選曲をし、レッスンを進める。

II期 今後の演奏技術向上に向けて、古典派の作品などから基本となる作品を選び、パフォーマンスへの理解を高めて行く。

(2年次)

III期 古典派、例えばベートーヴェンの作品を演奏する事で、機能と和声への理解、フレージングの大切さ、姿勢の矯正と正しい呼吸法を身につけ、自分の身体と楽器の音色の関係への認識を糸口にし、表現力の拡大を目標とする。

IV期 初期ロマン派、ロマン派の作品、例えばシューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ショパンの作品を教材として、歌う事、cantabile の意義と音色について考え、自分なりのフレージングの表現まで到達する事を目標とする。

### ＝テキスト（必携）＝

### ＝参考書・参考資料（必携）＝

### ＝成績評価の方法と評価の基準＝

各専門楽器コースと同じように実技試験により評価する。  
実技レッスンへの規定の出席率が満たされない場合、実技試験受験資格が認められない。

**=その他=**